

Ⅱ

自己評価を行うことが難しい子供の 自尊感情の傾向を把握するために ～「他者評価シート」の開発～

本章においては、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画の基本理念等を踏まえ、自己評価を行うことが難しい子供の自尊感情の傾向を把握することができるよう、東京都教職員研修センターと研究協力校、研究協力大学が共同研究を進めてきた内容を掲載しています。

自己評価を行うことが難しい子供には、自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」を活用して子供の状況を捉え、理解を深めることが大切です。

特別支援学校や特別支援学級等の児童・生徒や就学前の幼児等、「自己評価シート」による自己評価を行うことが難しい子供の自尊感情の傾向を把握することを目的として、自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」（以下「他者評価シート」と表記。）を開発しました。開発に当たっては、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画（以下「第三次実施計画」と表記。）を踏まえ、今後の特別支援教育を推進するための様々な取組の参考となるよう、研究を進めてきました。

1 特別支援教育の推進における「現状と課題」と「改善の方向」

第三次実施計画策定の基本的な考え方

(1) すべての学校で実施する特別支援教育の推進

第三次実施計画においては、障害のある幼児・児童・生徒一人一人の障害の種類や程度に応じた専門的な教育を行い、幼児・児童・生徒一人一人の成長・発達を最大限に伸ばせる教育環境の更なる整備・充実に努めます。

(3) 自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進

都教育委員会は、自立と社会参加に必要な知識・技能や働く意欲などを育てることは学校教育の使命であり、障害のある人々の自立と社会参加は共生社会の実現に向けて重要な意義を持つと考えます。

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画（東京都教育委員会 平成 22 年 11 月）
第 4 章 第三次実施計画の基本的な考え方、2 第三次実施計画策定の基本的な考え方 より抜粋

【現状と課題】

平成 15 年度に都教育委員会が都内すべての公立小・中学校を対象に実施した調査では、「小・中学校の通常の学級には、特別な支援を必要とする児童・生徒が 4.4% 在籍している」との結果を得ました。一方で、平成 21 年度の自閉症・情緒障害学級（固定学級）の在籍及び情緒障害等通級指導学級の利用の実態を見ると、いずれかの学級に在籍又は利用する児童・生徒の占める割合は、義務教育段階（公立学校）の児童・生徒全体の 0.6% 程度です。

したがって、こうした数値や近年の特別支援教育への理解の進展等に基づけば、発達障害の児童・生徒に対する支援のニーズは、今後も一層高まることが推測されます。

【改善の方向】

発達障害の児童・生徒の場合、集団生活や対人関係において生じる様々な困難が、本人の自尊感情の低下、焦燥感の高まり、自信の喪失などにつながり、学校生活への不適応や不登校などの深刻な二次障害を引き起こすことがあります。

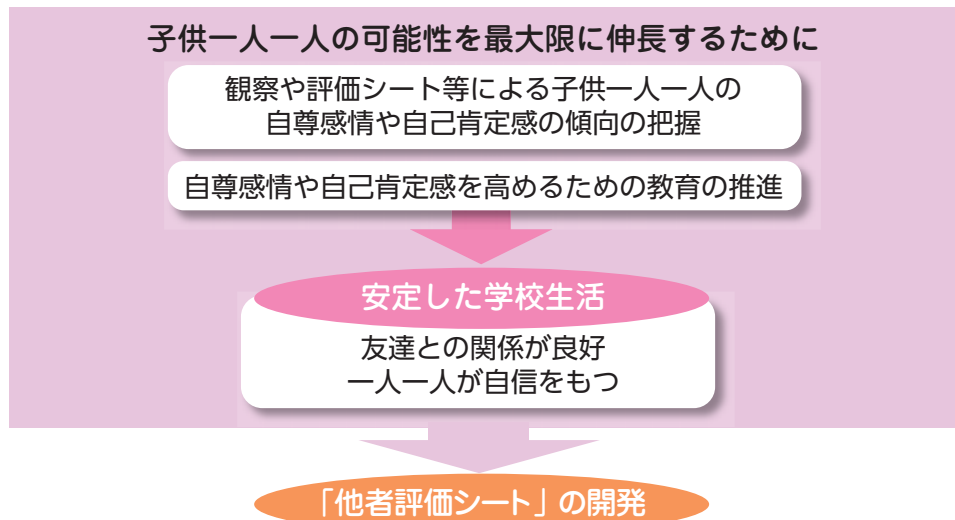
また、発達障害に関する適切な理解や支援の共通理解がないと、周囲の人々もストレスを高めることになり、それがいじめやからかい等に波及することも懸念されます。このため、発達障害の児童・生徒をめぐっては、本人及び周囲の人々が、対人関係上のトラブルやストレスを生じさせないような工夫等を行うことが大切です。

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画（東京都教育委員会 平成 22 年 11 月）
第 3 章 区市町村における特別支援教育推進体制の整備、1 小・中学校における発達障害の児童・生徒に対する新たな特別支援教育推進体制 より抜粋

第三次実施計画に掲載されたものの中から、本研究と関連する現状や課題の一部を掲載しました。

特別支援教育の推進における現状と課題などから、子供一人一人の可能性を最大限に伸長するために、自尊感情や自己肯定感を高めるための教育を充実させることが必要です。

このことにより、子供は、友達との関係が良好になったり、一人一人が自信をもてるようになったりするなど、安定した学校生活を送ることが期待できます。



2 「他者評価シート」とは

自尊感情の傾向を把握するための行動観察シートです

「他者評価シート」とは、自己評価を行うことが難しい子供について、教員等が自尊感情の傾向を把握することができるように開発した行動観察シートです。「他者評価シート」は、子供の状況を把握する「24項目」で構成されます。これらは、研究協力校の授業等を観察し、観察した行動等を、KJ法的な手法で分類・整理し、24項目にまとめました。さらに、これらの24項目を因子分析し、「安定した学校生活を送るための6つの観点」に整理しました。

なお、この評価項目は、自尊感情を測定する尺度そのものではありませんが、子供の行動観察によって、自尊感情の傾向を把握することができます。一人一人の個性を把握し、全ての子供をより理解するための、「自己評価シート」を補完するシートとして活用できます。

No.	安定した学校生活を送るための6つの観点	24項目
1	①人への働き掛け	自分から友達に働き掛ける。
2		日常的に交流の少ない相手にも関わる。
3		自分の思いや意見を何らかの手段で表現する。
4		集団の中で意欲的に行動する。
5	②大人との関係	特定の大人を信頼して心を開く。
6		大人との関わりを受け入れる。
7		自分から身近な大人に関わる。
8	③友達との関係	友達との関わりを受け入れる。
9		友達のことを考えて発言する。
10		友達のことを考えて行動する。
11	④落ち着き	自分から気持ちを立て直す。
12		これまでできなかったことに取り組む姿勢が見られる。
13		一つのことを最後まで取り組む姿勢が見られる。
14		自分の行動を自分で決める。
15	⑤意欲	肯定的な言葉掛けにより安定する。
16		肯定的な言葉掛けにより嬉しそうにする。
17		新しいことができると嬉しそうにする。
18		肯定的な言葉掛けにより次への意欲につながる。
19	⑥場に合わせた行動	相手の要求を受け入れる。
20		相手の指示を受け入れる。
21		ルールを守って行動する。
22		集団の雰囲気になじんでいる。
23		集団の活動に合わせて行動する。
24		状況に応じて臨機応変に行動する。

「他者評価シート」の全ては、32～33ページを参照。

「他者評価シート」の構成

(1) 24項目の子供の状況

因子分析

(2) 安定した学校生活を送るための6つの観点

子供の状況等を理解する三つの側面

対人関係	観点1 人への働き掛け	観点2 大人との関係	観点3 友達との関係
自己行動の制御	観点4 落 ち 着 き	観点5 意 欲	
社会的なルールの理解	観点6 場に合わせた行動		

(3) 具体的な姿

24項目の子供の状況のイメージを補うために、「具体的な姿」(32～33ページ参照)を例示しました。「他者評価シート」を活用する際に、対象の子供の具体的な活動場面を想起するときの参考になります。

「他者評価シート」を構成する 「24項目」と「6つの観点」と「具体的な姿」の意義について

「他者評価シート」を活用する際に、「24項目」に示された状況だけで判断するのではなく、一人一人の子供の姿を、「6つの観点」で捉え、さらに項目のイメージを補う「具体的な姿」(32～33ページ参照)で捉え直すことが大切です。

このことにより、教員が改めて子供の状況等について「対人関係」「自己行動の制御」「社会的なルールの理解」などの側面からの理解を深めることができます。

その結果、指導の手だてを焦点化し、指導に生かすことができるようになります。子供たちにとって、教育環境が整備されることにより安定した学校生活を送ることが期待できます。

慶應義塾大学文学部心理学専攻教授 山本淳一先生からのコメントから



3 「他者評価シート」で把握する方法

(1) 「他者評価シート」を使って子供の状況を把握してみましょう。

- ①32～33ページを複写したり、東京都教職員研修センターホームページからダウンロードしたりして、子供の人数分の「他者評価シート」を用意します。
- ②授業中や休み時間などの子供の現在の状況について教師が回答します。
- ③各項目を読み、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」「2 どちらかというにあてはまらない」「1 あてはまらない」の中から、子供の状況に近い番号に○を付けます。
- ④各項目には、イメージを補うために「具体的な姿」を示しましたので参考にしてください。2つずつ記載されている「具体的な姿」のどちらか一つ、あるいは、両方が満たされていないかならない訳ではありません。対象の子供の具体的な活動場面等を想起する際の参考例として活用してください。

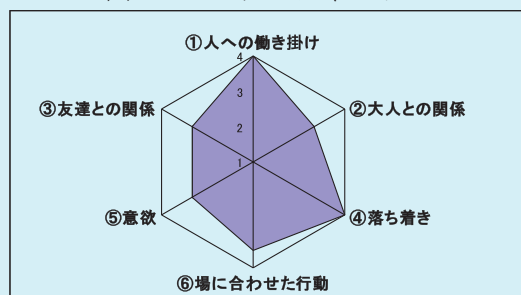
(2) 結果を把握し、子供の理解を深めましょう。

- 「他者評価シート」の結果は、単に得点の高低を見るのではなく、子供の指導の手だてとなるように活用します。
- 把握の方法は、各項目の回答結果を集計します。集計には（図1）の集計表を用います。
- 集計結果は、レーダーチャート（図2）に表され、6つの観点の傾向を把握することができます。
- 観点や得点の高低に着目する場合には、個別指導計画やアセスメント（標準化された発達検査等を用いて、児童・生徒の障害の成長・発達の段階や技能水準等を把握すること）等を踏まえた上で指導の手だてにつなげます。

図1 集計表

	問1 自分から 友達に働 き掛ける	問2 日常的に 交流の少 ない相手 にも関わる	問3 自分の思 いや意見 を何らか の手段で表 現する
1 (例)Aさん	4	2	3

図2 レーダーチャート



(3) 指導の手だてを焦点化し、指導に生かしましょう。

- 担任等が実施した「他者評価シート」の結果を基に指導の手だてを焦点化します。
- 得点の低い観点や項目に着目した場合には、「具体的な姿」を参考にし、該当すると考えられる学習活動や行動を焦点化し、指導の手だてとします。

全ての子供の個性をより理解するために活用することができます

- 幼児・小学校低学年をはじめ、自己評価を行うことが難しい子供の自尊感情の傾向を把握する際に活用できます。
- ※小学生第1学年～第3学年では、子供がどの項目に対しても4段階の4点や3点など高い得点を付ける傾向がありますので、状況によって「他者評価シート」を活用することが効果的です。
- 子供一人一人の個性をより理解するためのシートとして、全ての子供に活用できます。
- 「具体的な姿」（32～33ページ参照）は、教員の振り返りシートとして活用することができます。例えば、「具体的な姿」と同様の場面や姿などが観察されたか、これまでの指導が目指す子供の姿にどの程度生かされているのかなど、自己の指導の振り返りとして活用することができます。

4 自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」

「他者評価シート」実施日 年 月 日 (No.)

質問に対して、記名をした子供の状況に近い数字に○を付けてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらか」というとあてはまる場合は3、「どちらか」というとあてはまらない場合は2、「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

No	観 点	項 目	あてはまる	どちらかというときあてはまる	あてはまらない	あてはまらない	具体的な姿	
							該当する□にチェックをして、自己の指導を振り返りましょう。 □は、各項目のイメージを補うための具体的な姿としました。対象の子供の活動場面を想起する際の参考としてください。	該当する□にチェックをして、自己の指導を振り返りましょう。 □は、各項目のイメージを補うための具体的な姿としました。対象の子供の活動場面を想起する際の参考としてください。
1	① 人への働き掛け	自分から友達に働き掛ける。	4	3	2	1	☐ 自分から友達に話し掛けたり、一緒に遊んだりしている。 ☐ 友達の使っている物を貸してほしい時や友達と遊びたい時など、自分から友達に言葉掛けなどをしている。	
2		日常的に交流の少ない相手にも関わる。	4	3	2	1	☐ 学校に来た人などに挨拶している。 ☐ 学級以外の教員や友達に会った時に、相手の質問に応じたり、話し掛けたりしている。	
3		自分の思いや意見を何らかの手段で表現する。 (手段:表情、身振り、音声や簡単な言葉、補助手段など)	4	3	2	1	☐ やりたいことや、やって欲しいこと、欲しい物などを、表情や身振りで相手に伝えている。 ☐ やりたいことや、やって欲しいこと、欲しい物などを、音声や簡単な言葉で表現している。	
4		集団の中で意欲的に行動する。	4	3	2	1	☐ みんなの前に出て活動に参加している。 ☐ 友達や教員の動きを見て、自分でも挑戦している。	
5	② 大人との関係	特定の大人を信頼して心を開く。	4	3	2	1	☐ 担任や保護者など特定の大人が近くにいることで、落ち着いて取り組んでいる。 ☐ 担任や保護者など特定の大人に自分の気持ちを伝えたり、大人の話を聞いたりしている。	
6		大人との関わりを受け入れる。	4	3	2	1	☐ 担任以外の教員などの大人の話を聞いている。 ☐ 担任以外の教員などの大人からの言葉掛けで、一緒に活動している。	
7		自分から身近な大人に関わる。	4	3	2	1	☐ 自分から家族や教員に、話し掛けたり、遊んだりしている。 ☐ 自分の知っている大人に話し掛けたり、相手の顔を見たりしている。	
8	③ 友達との関係	友達との関わりを受け入れる。	4	3	2	1	☐ 友達の話聞いています。 ☐ 友達からの言葉掛けで、一緒に活動している。	
9		友達のことを考えて発言する。	4	3	2	1	☐ 友達を励ましたり認めたりするなど、相手の気持ちになって言葉掛けをしている。 ☐ やってはいけないことを注意するなど、友達のためになることを助言している。	
10		友達のことを考えて行動する。	4	3	2	1	☐ 友達が困っているとき助けるなど、友達のためになることをしている。 ☐ 友達の気持ちを察して、自分勝手な行動をしない。	

11	自分から気持ちを立て直す。	4	3	2	1	☐ 気持ちの高ぶっているときなどに、自分で気持ちを落ち着かせている。 ☐ 嫌なことや苦手なことなどに対して、気持ちを整えて取り組もうとしている。	
12	④ 落 ち 着 き	これまでできなかったことに取り組む姿勢が見られる。	4	3	2	1	☐ 学習や係活動などで、一人で取り組めることが増えている。 ☐ 教員や友達など、人との関わり方がよくなっている。
13		一つのことを最後まで取り組む姿勢が見られる。	4	3	2	1	☐ 学習や係活動などで、分担の仕事から指示を受けてやり遂げようとしている。 ☐ 学習や係活動などで、分担の仕事を自分でやり遂げようとしている。
14		自分の行動を自分で決める。	4	3	2	1	☐ 学習や係活動などで、やりたいことを自分で選択している。 ☐ 学習や係活動などで、やることを分かって取り組んでいる。
15	⑤ 意 欲	肯定的な言葉掛けにより安定する。	4	3	2	1	☐ 褒められることにより、気持ちが落ち着く。 ☐ 失敗したり叱られたりして、気持ちが沈んだりしても、励まされることで気持ちが落ち着く。
16		肯定的な言葉掛けにより嬉しそうにする。	4	3	2	1	☐ 褒められることにより、笑顔になったり、嬉しそうな様子が見られたりする。 ☐ 自分の行いが認められることで、嬉しい様子を身体で表現している。
17		新しいことができる嬉しそうにする。	4	3	2	1	☐ 新しい学習や活動などに取り組むことができたとき、笑顔になったり、嬉しそうな表情になったりしている。 ☐ これまでできなかったことができたとき、笑顔になったり、嬉しそうな表情になったりしている。
18	⑥ 場 に 合 わ せ た 行 動	肯定的な言葉掛けにより次への意欲につながる。	4	3	2	1	☐ 褒められることで、自分から次の課題に取り組もうとしている。 ☐ 自分の行いが認められることで、学習や係活動などに意欲的に取り組む。
19		相手の要求を受け入れる。	4	3	2	1	☐ 欲しいものが友達と重なったときに、友達に譲っている。 ☐ 自分の本意でなくても、友達や教員から頼まれたら、断らずに取り組む。
20		相手の指示を受け入れる。	4	3	2	1	☐ 授業中や授業以外のときに、教員の言うことに従っている。 ☐ 自分の本意でなくても、教員や友達から言われたことを理解し、断らずに取り組む。
21		ルールを守って行動する。	4	3	2	1	☐ 身の回りのものを所定の場所に置いたり、列に並んで順番を待ったりするなど、決まりを理解して行動している。 ☐ 他人の持ち物を勝手に使わないなど、してはいけないことを守っている。
22		集団の雰囲気になじんでいる。	4	3	2	1	☐ 集団の活動の中で、友達がいることに関心をもっている。 ☐ 集団の活動の中で、友達と共に活動している。
23		集団の活動に合わせて行動する。	4	3	2	1	☐ 集団の活動の中で、早くやりたいくも自分の順番を待っている。 ☐ 集団の活動の中で、教員や友達を見て、みんなと合わせた動きをしている。
24		状況に応じて臨機応変に行動する。	4	3	2	1	☐ 予期しない事態になっても、気持ちを落ち着けて、状況に応じて行動している。 ☐ 自分の順番でも困っている友達に譲ったり、自分の欲しい物でも下級生に譲ったりしている。

